



あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

NO. 66

2011年7月15日

渋谷とみ子の会

埼玉県比企郡嵐山町平沢 254-64

Tel / Fax 0493 -62-7997

<http://www.k2.dion.ne.jp/~saiko/shibuya/>

[Eメール shibuya97@s4.dion.ne.jp](mailto:shibuya97@s4.dion.ne.jp)

3.11 は未来とのつながり、自然と地域とのつながりの 大切さをおもいださせてくれました。

南三陸町に災害ボランティア活動に参加しました。南三陸町は、人口1万8千人の漁業を中心にした町でした。写真は、港から公民館と小学校を写したものです。中央にあるのが公民館、その上が小学校の体育館です。校舎の奥まで津波が押し寄せ、小学生はさらに上の中学校に避難し、津波から逃れました。

若い女性職員の「津波がきますから避難してください」と防災無線で最後まで放送して津波に巻き込まれて命を落とした報道が心に残っています。歌津中学の体育館の避難所には、仮設住宅に当選しない人たちが残って生活していました。同じ地区の人と同じ仮設住宅があたるまで、入居を待つということです。阪神大震災の教訓「同じ地区で仮設に入居するほうが孤立しない」は生かされていません。

歌津中学では、中学生が、認知症のお年寄りのお世話をする活動が報道されました。漁業で生活しているので、いつも生死を考える生活なので、地域の仲間意識とつながりが強いと、伊里前契約会(元禄時代から続いている地域のつながり・薪を取るために共同で管理する共同体)会長さんからお話を伺いました。

漁業を伝えるために、伊里前契約会の大人は、中学生にわかめの生育を学校で教えています。



子どもと大人の間につながりがある地域だから、中学生がお年寄りのサポートができ、大人が次世代のために、海と森の生態系の復興を考えるプランを実現しようとしていることがわかりました。江戸時代から戦前までの薪を取るための森だった土地を町民の住宅に提供し、新しい街づくりをします。

海で生活している人の苦しみは、船や家や港がなくなったこと以上に、福島原発のメルトダウンによる放射能汚染が与える海への影響でした。わかめや魚介類が基準値以下の放射能でなければ、人が内部被曝します。漁業を生業とする人が海で食べていけなくなったら、私たちの生活も難しくなってきます。福島原発の事故は大きな影響を与えています。

私たちは自然と共生して生態系の破壊を少しでも食い止め、持続できる地球にする意思を持ちたいと思います。東日本大震災復興のサポートをこれからも続け、脱原発社会を目指しましょう。そのことが地球・嵐山町を未来も生活できる場、持続可能な町につながるはずで

